

社会福祉法人あかね

「ヴィラ^{そまおうぎ}杣扇」(兵庫県姫路市)

特養中心の経営脱し 事業の多角化図る

「社会福祉法人の新しい役割を今のうちから模索し、地域に幅広く貢献できる経営を目指したい」。兵庫県姫路市に本部を置く社会福祉法人あかね法人本部長の松本真希子氏はこう語る。

あかねは2010年5月に姫路市で「ヴィラ^{そまおうぎ}杣扇」、7月に猪名川町で「ヴィラ^{つるばみ}樺」と、県内に二つの適合高専賃を続けてオープンした。いずれも「ハイグレード高専賃」と銘打ち、高級感と充実した介護サービスを売り物にしている。

ヴィラ杣扇の総事業費は7億8000万円。同法人の約4万m²もの広大な敷地内に立地し、通所介護、訪問介護、居宅介護支援の複合事業所も併設している。高専賃には24時間体制

で介護スタッフが常駐し、身の回りの世話をするコンシェルジュの役割も担う。通所介護事業所「デイサービスリゾート 杣緑」(定員100人)には天然温泉が付いており、サービスを利用する入居者は露天風呂も楽しめる。また、高専賃と通所介護事業所の食事にもこだわり、有名料亭で料理長を務めたスタッフが調理を担当している。

一方、ヴィラ樺は能勢電鉄・日生中央駅から徒歩3分、川西市にほど近い場所にある。同法人が2000年に開設した特養「天河草子」(定員100人)に隣接し、高専賃の建物1階には一般向けのレストランを併設。同じ料理人が高専賃の入居者に毎日の食事を提供している。重度化すれば、隣

の特養へ住み替えることも可能だ。

中間所得層をターゲットに

高専賃を開設した2カ所の土地は、いずれも法人が購入。当初は特養や介護付き有老ホームを計画していたが、2006年以降の総量規制の影響で自治体から開設許可が下りず、一度は白紙になった。その後、改めて活用方法の検討を進めるうちに、「多くの中間所得層にとって不足している手ごろな入居料金の高齢者住宅を提供したいと考えるようになった」(松本氏)。

高専賃に進出した背景には、特養中心の経営を多角化させる狙いもあった。「今後は介護報酬の引き下げや社会福祉法人への課税強化など、厳しい時代になる。今のうちから経営体力を高めておきたかった」と松本氏は語る。

高専賃の展開に当たって同法人が掲げた理念は、「生涯にわたって住み続けられるハイグレードの住まいを多くの高齢者に」である。特に重視したのが、満たされた住環境づくりだ。「今までの人生で苦勞を重ねてきた高齢者が住むのにふさわしい設備や生活サービスを追求した」と松本氏は語る。

実際、あかねの高専賃の居室は37m²以上と、通常の高専賃よりかなり広い。設備・仕様も分譲マンションと同レベルを目指し、豊富な収納スペースも確保。入居者が料理を作る

◎ヴィラ^{そまおうぎ}杣扇



開設地：兵庫県姫路市／開設時期：2010年5月／居室数：66戸／居室面積：37.17～38.73m²／入居時費用：敷金約40万円、礼金約50万円／月額料金：家賃8万5000～8万8000円、管理費6万円、食費5万4500円(1日3食の場合)など／主な専属スタッフ：日中は介護職員を2、3人配置し、夜間は専任の管理者1人と当直の介護職員1人を配置／主なサービス内容：24時間スタッフ常駐、安否確認、緊急通報／利用する主な外部サービス：同一敷地内の通所介護・訪問介護・居宅介護支援事業所

ことを想定して、キッチンの上には電動昇降棚を取り付けるなどした。

その一方、社会福祉法人ならではの「介護目線」から、設備・仕様を検討した。コンセントは壁の高い位置に設置し、高齢者が立ったまま手が届くように配慮。ナースコールは通話可能なタイプを採用し、連絡を受けたスタッフが緊急性を判断しやすくした。

深夜帯はスタッフ2人体制

スタッフ配置も手厚い。日中は介護職員が2、3人常駐し、コンシェルジュのサービスを行う。「通所介護との兼務で10人のスタッフがローテーションで担当するため、運営効率化を図りやすい」(松本氏)。

深夜帯は当直の介護職員1人のほか、外部から管理人として派遣されたスタッフ1人の計2人を配置。入居者の状態が急変した場合、介護職員が病院に付き添っても、もう一人が施設内に残れるようにしている。

大半の生活支援サービスの費用は管理費に含まれる。このほか、介護保険の対象外のサービスを入居者から求められた場合や、入居者が重度化した場合に備えて、自費の訪問介護サービスも用意。例えば、家事代行の料金は1回15分450円に設定している。

開設後の入居者の反応は上々だ。ヴィラ柚扇の場合、日中は敷地内の通所介護事業所で好みのプログラムを楽しむ入居者が多いという。その

内容はパワーリハビリ、言語療法、陶芸、料理教室、フラダンスと様々で、散歩がてら庭園の花を見たり、運動場でグラウンドゴルフに興じる人もいる。

二つの高専賃の運営状況はまずまず。ヴィラ櫟は開設から5カ月後の2010年12月現在で契約率が9割に達している。一方、ヴィラ柚扇は2010年5月の開設から7カ月で5割。特養に隣接するヴィラ櫟の方が安心感を与えやすい分、入居者確保で先行しているようだ。

今後の課題は、ヴィラ柚扇の入居率アップ。「姫路市内に当法人の特養がある点を、これからは積極的にアピールしていきたい」と松本氏は話している。



居室(左)と1階のエントランス(中央下)。敷地内の通所介護事業所では散歩や露天風呂も楽しめる(中央上と右下)。右上は法人本部長の松本真希子氏

